

8 農作業の省力化、法面对策(センチピードグラス)

きたのかわち
【北ノ川内集落協定：有田町】

【取組概要】

- センチピードグラス (ムカデ芝)を植え付けて、除草作業の大幅な軽減化を実現する。
- 将来を担う農家の負担を最大限減らし、農地の圃場整備を進めたい。

地域の現状

有田町は、ため池が多いため法面も広がっている。
当地区では平成12年度から協定に基づく活動を実施。
生産者の高齢化・後継者不足が進むなか農家の負担を減らす先進的な対策に取り組んでいる。

協定の概要(R5)

1. 取組面積 28.2ha
(田 28.2ha 畑 ha)
2. 交付金額 593.2万円
個人配分 50%
共同取組 50%
3. 協定参加者 40人
農業者 40人

😊 交付金はこんなことに活用しています！

センチピードグラスの播種、農道・水路の管理費、農地管理費、機械購入積立等

取組経緯

ステップ1 取り組み開始のきっかけ、開始時の苦労点

農業は、同じ場所を、年に4回～5回の草刈りを行わなければならない。農業従事者が高齢化していく現状では、その負担は、年ごとに体にこたえる。これを軽減化する方策を模索していく中で、センチピードグラスを植え付けて、雑草の繁殖を抑え、草刈りを軽減化することが出来ることを知り、実施を決断。

吹き付け(植え付け)を業務としている業者(だるま製紙所)の指導を受け、他県での実地指導を体験した上で、地区の協力のもと、地元から吹き付け作業を開始した。

ステップ2 創意工夫した点

会議を重ねて、前年の夏からの工程スケジュールを作る。シバの吹き付け施工は、事前準備である草枯らし、枯草焼却、当年の除草から、施工後に生えてきた雑草の処理などが必要条件であるため、『吹き付けをした後は、何もしなくて良い。』との認識を変えることに気をを使う。

吹き付け当日は、地元の協力を得たうえで、手際良く施工することが出来ている。しかし、施工直後に強いまとまった雨が降る場合は、吹付けた種子が流れ落ちてしまうことがあり、この場合は、翌年再施工となる。

ステップ3 取り組みによる変化と今後の課題

個人の圃場法面ばかりではなく、地区溜池の堤防法面、地区農道脇の法面、町道や県道の路肩法面などの要望があり、施工を実施している。施工後の雑草処理管理をしている場所は、綺麗になっている。吹付けスタッフの高齢化が課題。

【取り組みによる効果】

県の事業で、吹き付け機械を購入、一日1haの面積吹付けを実現する。

【協定代表者から一言】

将来を担う農家の負担を最大限減らしたい。センチピードグラスもその対応措置。先輩農家の仕事は、若い人のためにある。今後は、農地の圃場整備を進めたい。

【注意事項】

- 焼却効果をもとめるため、雑草は必ず伸ばしておく。
- 除草は「多年生雑草対策」が重要。(残ると播種後の管理が大変)秋と春の除草剤散布で根絶させる。
- 播種は必ず梅雨期に実施。
- 吹付け後の除草管理は、雑草との競合を避け、センチピードグラスを早期に繁茂させるため、高刈り除草を行う。



施行前



焼却状況



吹付け作業